

(3) 大問 [三] 国語基礎力の応答分析, 考察, 指導上の留意点

問二

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問二	正答	エ (彼を見ていると, 頭がかたすぎる <u>きらいがある</u>)	29	17	15	61	20.3
	誤答	ウ (明日の午後には, 台風が上陸する <u>きらいがある</u>)	46	45	43	134	44.7
		イ (最後までがんばれば, うまくいく <u>きらいがある</u>)	15	23	24	62	20.7
		ア (雨が激しく降っており, 注意する <u>きらいがある</u>)	8	11	11	30	10.0
		オ (彼は性格がよいので, 友達が多い <u>きらいがある</u>)	2	4	5	11	3.7
		(無 答)			2	2	0.7

語句の用法として正しいものを選ぶ問題である。正答率20.3%で, 低位の〈a - b c型〉を示している。語彙に関する知識の不足を感じる。

問三

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問三	正答	ウ (胸)	79	56	34	169	56.3
	誤答	オ (足)	13	30	46	89	29.7
		エ (腰)	7	10	13	30	10.0
		イ (目)		2	5	7	2.3
		ア (頭)	1	2	2	5	1.7

「胸がすく」という表現について答える問題。〈a - b - c型〉を示しており, 特にc群に語彙に関する知識の不足が目立った。

問四

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問四	正答	イ (未)	95	79	64	238	79.3
	誤答	オ (無)	3	16	20	39	13.0
		ア (非)		4	10	14	4.7
		エ (否)	1		4	5	1.7
		ウ (不)	1	1	2	4	1.3

否定語の用法として正しいものを選ぶ問題。誤答オを選択した生徒は, 無冠・無官などの正しい表記によることなく, 「ムカン」という音のみで解答したのではないかと考えられる。

問五

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問五	正答	イ (良好な人間関係は, 実りある仕事をする上で大切だ)	94	86	62	242	80.7
	誤答	オ (映画を見て, 原作を読みたいという思いがられる)	6	12	21	39	13.0
		ア (父の機嫌がよいのは, 妹のテストが満点だったのだ)		1	8	9	3.0
		ウ (表現力を高めることで, 登場人物の感情を伝えたい)			6	6	2.0
		エ (私の趣味は, ギターを弾くことが何よりも好きです)		1	3	4	1.3

文の構成の正しいものを選ぶ問題。〈a b - c型〉を示している。誤答はオが最も多い。「思いがられる」という表現を知らないと考えられる。

問六

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (1)	正答	交換	99	88	81	268	89.3
	誤答	交□（「換」の偏または傍の違い）		10	5	15	5.0
		交□（「換」が別の字）		1	3	4	1.3
		□換（「交」の間違い）	1		1	2	0.7
		（その他）		1	3	4	1.3
		（無答）			7	7	2.3

「コウカン」を漢字に直す問題。全ての群において正答率が高い。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (2)	正答	引率	71	31	14	116	38.7
	誤答	引卒	13	18	11	42	14.0
		□率	2	13	6	21	7.0
		引□	1	2		3	1.0
		（その他）	7	12	22	41	13.7
		（無答）	6	24	47	77	25.7

「インソツ」を漢字に直す問題。群間差の大きい〈a－b c型〉を示しており、b c群では無答が多い。過去に平成元年度（正答率60.0%）と平成12年度（同50.0%）にも出題されているが、正答率は下がっている。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (3)	正答	妨（げる）	51	16	6	73	24.3
	誤答	防	25	28	16	69	23.0
		偏の間違い	2	6	2	10	3.3
		傍の間違い	1	2	2	5	1.7
		（その他）	10	21	20	51	17.0
		（無答）	11	27	54	92	30.7

「サマタ（げる）」を漢字に直す問題。正答率が非常に低く、無答が多い。意味や字形が似ている「防」と混同した生徒が多い。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (4)	正答	ばっさい	100	100	94	294	98.0
	誤答	さいしゅ			1	1	0.3
		だいばつ			1	1	0.3
		ばいしょう			1	1	0.3
		（無答）			3	3	1.0

「伐採」の読みを答える問題。正答率98%でよくできていた。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (5)	正答	じちょう	89	61	44	194	64.7
	誤答	じじゅう	8	23	35	66	22.0
		「重」の誤読（「じゅう」以外）	3	13	15	31	10.3
		（その他）		2	3	5	1.7
		（無 答）		1	3	4	1.3

「自重」の読みを答える問題。〈a－b－c型〉を示している。過去に平成7年度（正答率60.0%）と平成15年度（同50.0%）にも出題されている。正答率は向上しているが、「慎重」、「貴重」などと併せて読みを定着させたい。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (6)	正答	ほどこ（す）	96	94	68	258	86.0
	誤答	もよお（す）	2	3	4	9	3.0
		しめ（す）		1	3	4	1.3
		（その他）	2	2	16	20	6.7
		（無 答）			9	9	3.0

「施（す）」の読みを答える問題。高位の〈a b－c型〉を示している。

<指導上の留意点>

実 態 及 び 問 題 点	
新聞記事は冒頭部分に要旨がまとめられていることが多い。しかし、多くの生徒はその特徴に気付かず、表現の細部や具体例、数値にとらわれて、要点を把握できないことがある。	
指導における改善の具体策	
今回の問題を使い、形式段落ごとの要旨、段落相互の関係、図の役割を確認する。	
学習活動	
① 書画カメラやパワーポイントによって投影された今回の問題を見ながら、形式段落ごとの要旨、段落相互の関係、図の役割を確認する <p>第一段落には記事の要旨、第二段落には「はがきや手紙などの宛名」や「本文」を手書きする人の割合が「少なく」なった、「減った」こと、第三段落には「なるべく手書きで手紙を書く」べきであると考えている人の割合が「増えた」ことが書かれている。</p> <p>第二・三段落が第一段落を補強していることや、図と本文の関係を確認する。線を引いたり、関係のある部分を線で結んだりすることによって、記事の構成を理解する。</p>	
② 別の記事（タイトルは教師側で事前に削除しておく）を6人程度のグループで分析し、タイトルを付ける。なぜそのタイトルにしたのか、理由も含めて発表を行う。	
③ ①で示した読解の手順に沿って、生徒自身で記事を読み、要点をまとめる活動を繰り返し行う。	